

編集後記：2月は大学では修士論文の季節です。私が修士論文と格闘していたのは、汎用大型計算機の周辺機器でようやく等値線図などが描けるようになった時代で、ごく一部の研究室にワープロが導入され始めた頃でした。個人用に割り当てられたパソコンからカラーの図やワープロできれいに清書された文章を印刷する学生の姿を見ているうちに、400字詰の横書原稿用紙を焦って埋めていった15年前の記憶が懐かしく蘇ってきました。それにしても、学生から渡される修士論文は、(中身は様々でしょうが)見た目には出版された書籍のように立派なもので、15年間の技術の進歩に目を見張らざるを得ません。

学生の中には、T_EX(テフ)と呼ばれる高度な文書整形ソフトや、その簡易版のL^AT_EXを使って、顔負けの印刷をする者も少なくありません。T_EXでは本文となるテキストに、文字種や印刷スタイル、数学記号、段落設定などを示す「おまじない」が挿入されているため、刷り上がりイメージそのままの画面上で作業するパソコンのワープロに慣れた私にはちょっと敷居が高く感じられます。けれども、積分や微分が複雑に入り組んだ式を幾つも含むような文書でも美し

く仕上がり、途中に式を削除したり新たに挿入したりしても、式の通し番号が自動調整されるなど、科学論文作成用には優れモノだそうです。気象学会の会員の中にも、特に大学関係者でお使いの方が結構多いと思います。

T_EXで作成された論文をそのまま受け付ける学会誌もかなりあるようです。実際「気象集誌」もその一つです。但し、T_EX原稿を処理できる技術を持った印刷所はあまり多くありません。また、編集委員の中にもT_EXの利用者はごく少数ですので、送られてきたT_EX原稿から「おまじない」部分を除去してプレインテキストに変換する作業を素早くに行なえる体制にはありません。学会の様々な情報を毎月遅延なく全ての会員にお送りすることが使命の「天気」において、現在の体制でT_EX原稿を受け付けられないのもそのためです。T_EXを利用する一部の会員の皆さんからのご要望には現在のところお応えできませんが、ネットワーク上で公開されたソフトウェアを利用されるなどして、プレイン・テキストファイルに変換しての投稿をお願いする次第です。(中村 尚)

訂正

45巻12号総目次(iii) ページ左上「梅雨前線付近の雲クラスター……859~905(12)」は、(ii) ページ右論文の末尾に移動、(vi) ページ左気象談話室「……柳野 健…909~913(12)」を「……柳野 健…907~913(12)」に訂正いたします。46巻1号22ページに掲載された第1図の説明文に「なお、国土地理院発行の昭和51年修正測量1:25000地形図N1-53-28-7-1(高知7号-1)とN-53-28-7-2(高知7号-2)を利用した。」を追加します。

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)

編集委員 神沢 博(理事)・関口理郎(理事)

藤部文昭(理事)・大泉三津夫

大野滋規・小田切さやか

木下 仁・木村陽一・小司禎教

住 明正・田口晶彦・鳥山泰宏

中村 尚・中村誠臣・新村典子

板東恭子・藤川典久・別所康太郎

水野孝則・水野 量・安田宏明

山本 哲

地区編集委員 北海道 岡村敏夫・上田 博

東北 栗原弘一・早坂忠裕

関東 加藤諄司

中部 岩坂泰信・坪木和久

関西 半澤洋一・山中大学

九州 迫田優一・中島健介

沖縄 豊見山 浩

編集書記 遠藤和子